

印西自転車散歩マップ

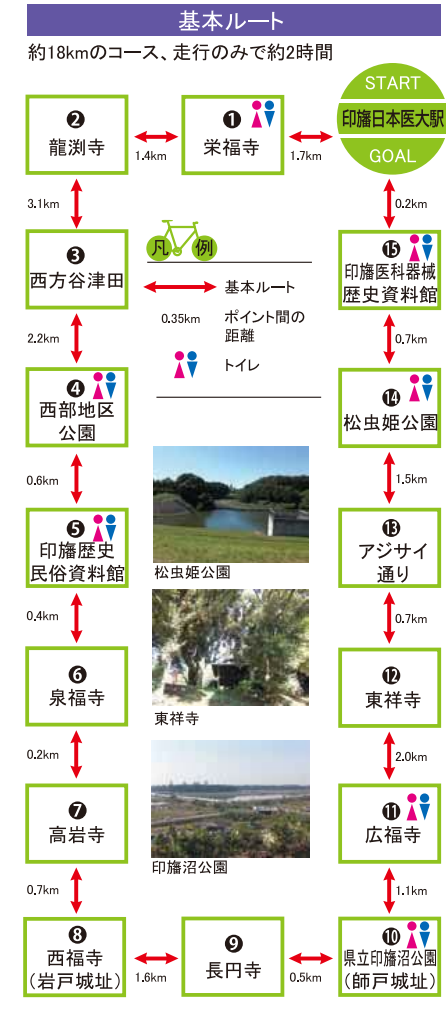
中世の城址と里山景観ルート

(岩戸、師戸、鎌苅、大廻)

基本ルート

- 基本ルート (赤線)
- 坂道 (赤線に矢印)
- 走行注意箇所 (黄色三角)
- オプションルート (青線)
- 主要道路 (黄色線)
- 北総鉄道・成田スカイアクセス (茶色線)
- 河川、池、沼など (青線)

18 チェックポイント
77 印西大師札所番号
トイレ トイレ
コンビニ コンビニエンスストア
公園 公園
水田 水田
印旛沼 印旛沼
信号 信号



ルートの留意点

本ルートの総距離は約18km、純走行時間は約2時間ですが、神社仏閣などをゆっくり観て回ると4、5時間かかります。

留意点としては、チェックポイントの神社仏閣の標識がほとんどありません。あらかじめマップでルートを確認してお進みください。またこのルート上には、コンビニ、食堂などがほとんどありません。トイレも少ないので、ご注意ください。

- 自転車走行上の留意事項**
- 散策などをされる際には、以下のことに特に留意して、マナーを守ってお楽しみください。
 - (1) 住居などの生活空間に立ち入らないこと
 - (2) 動植物を勝手に採取しないこと
 - (3) 境内などをスパイクなどの金具の付いたシューズで歩かないこと
 - (4) 交通のさまたげとならないよう気をつけること

- 自転車安全利用五則**
- (1) 自転車は、車道が原則、歩道は例外
 - (2) 車道は左側を通行
 - (3) 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
 - (4) 安全ルールを守る
 - ① 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - ② 夜間はライトを点灯
 - ③ 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
 - (5) 子どもはヘルメットを着用

印西市 マスコットキャラクター いんざい君

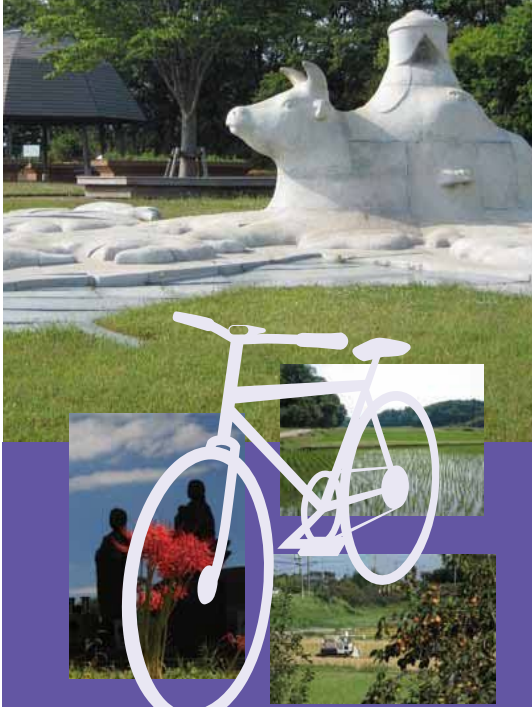
0 250m 500m 750m 1000m

※このマップは印西市の許可を得て印西市都市計画全図を基に製作されています。

印西自転車散歩マップ



中世の城址と里山景観ルート (岩戸、師戸、鎌苅、大廻)



印西いーまち会・印西市
平成26年3月

ルートの特徴

本ルートは、印旛日本医大駅から南側に印旛沼方面、岩戸城址や師戸城址などの中世の城址や神社仏閣、美しい里山景観をたどるルートです。

ルートは、谷津を出入りする際に、比高差20m程度のアップダウンがありますが、谷津田、神社仏閣、ゴルフ場、資料館など様々な景観に出会い、変化に富んでいます。特にお勧めなのは、西方周辺の里山景観で、目の前に広がる水田や里山の景色は開放感に満ちています。また春の県立印旛沼公園の梅や桜、印旛沼の眺望、アジサイ道路の景観もみごとです。

この他、印旛歴史民俗資料館や印旛医科器械歴史資料館には、興味深い資料が多く展示されています。

また、印旛沼周辺はサイクリング道路が整備され、釣り人やジョギング、サイクリングを楽しむ人が多く見られます。



基本ルート&見所

スタート地点

いんばにほんいだいえき
印旛日本医大駅

駅舎は千葉ニュータウンいには野地区のまち開きに合わせ開設され、時計台、展望台のある黒い尖塔とドームを持ったユニークなデザインが目立ちます。関東の駅百選にも選ばれています。駅前広場からは、東側に成田スカイアクセス線が成田空港に向かってのびているのが見渡せます。



① **栄福寺**

天台宗の寺院で、聖武天皇の御世の創建といわれる古刹で、本尊の薬師如来は行基の作とも伝えられています。本尊を安置する薬師堂は、3間四方の茅葺き奇棟造りで国の重要文化財に指定されています。現在の建物は、文明4年(1472)の建立と伝えられ、建立年代の明確な県下最古の建造物です。薬師堂の右側には熊野神社、左側には印西大師65番札所、ピンズル大師が祀られています。



② **龍湫寺**

大廻(おおば)地区の高台東側にある曹洞宗の寺院で、東祥寺の末寺にあたります。宝永6年(1709)に地元治朗左衛門により開基され、釈迦牟尼如来を本尊としています。印西大師80番札所があります。

この寺は大廻地区のはずれにひっそりと建っているため、うっかりすると見過ごしてしまうかもしれません。すぐ脇に消防団倉庫、火の見櫓があり、周辺からの目印になります。



③ **西方谷津田の里山景観**

南北約3kmにわたり谷津田が広がり、周囲に人家が見えず、見渡す限りの田んぼ、里山景観が広がり、開放感に満ちています。田植えの後の一面の緑の苗や、稲刈りの前の黄金色の稲穂が連なる里山沿いの道をたどると、気分が爽快となります。



④ **西部地区公園**

野球場、全天候型テニスコート2面、アスレチック遊具のある広場があります。一面が芝生の開放的な公園で、ベンチ、テーブルもありますので、散歩中のひとやすみにもお勧めです。公衆トイレはテニスコート脇にあります。



⑤ **印旛歴史民俗資料館**

旧印旛村域の発掘調査で出土した考古学資料や、貝化石、歴史年表や印旛沼周辺地域の地形模型などが展示され、古代から中世、近世に至る郷土の歴史を知ることができます。また印旛沼の漁労具、農具、養蚕、暮らしに関する民具、江戸時代から近現代の歴史資料などが見学できます。

■休館日 月曜日、祝日、年末年始。
(月曜日が祝日の場合は、次の最も早い平日)
■開館時間 9~17時。
すぐそばの宗像小学校的グラウンド中央には、プラタナスの巨木がそびえ、外から見ても壮観です。



⑥ **泉福寺**

真言宗の寺院で、千手観音を本尊としています。開基、沿革が明らかでなく、弘治2年(1556)に焼失し、その後再建されたと伝えられています。境内にある薬師堂は、3間四方の茅葺き奇棟造りで、国の重要文化財に指定されています。印西大師74番札所があります。



⑦ **高岩寺**

曹洞宗の寺院で、永正元年(1504)に全真和尚により開基されました。本尊は観世音菩薩で、印旛七福神の福祿寿、印西大師32番札所があります。境内には、子安観音(赤子を抱いた観音)の石像も見られます。



⑧ **西福寺(岩戸城址)**

もとは臼井城の支城で、臼井四天王の一人、岩戸五郎胤安が築城したとされています。現在は西福寺の境内になっています。臨済宗の寺院で、寺伝によると胤安の霊をなくさぬため、文和2年(1353)に岩戸城址に創建されたと伝えられ、釈迦如来を本尊としています。山門の周りのもみじが晩秋には見事です。



⑨ **長円寺**

真言宗の寺院で、阿彌陀如来を本尊としています。開基、縁起が明らかでなく、正徳5年(1715)に再建されたと伝えられています。境内に印西大師29番札所があります。



⑩ **県立印旛沼公園(師戸城址)**

小高い山の上の県立公園で、自然豊かな印旛沼の姿を望むことができます。また、春には梅や桜、秋には萩などが園内を彩り、多くの人でにぎわいます。中世城郭「師戸城」の城址で、臼井四天王の一人、師戸四郎の居城と伝えられています。印旛沼に向かって北から南に突き出た、比高約20mの舌状台地に築かれていて、面積は4.8haあります。園内には、敵を防ぐための土塁、空堀などが見られ、中世城郭の面影をよく残しています。



⑪ **広福寺**

真言宗の寺院で、阿彌陀如来を本尊としています。印西大師の結願寺の一つで、印西大師33番、77番札所があります。境内には、弘法大師像や四国八十八箇所巡拝報恩石碑、光明真言石碑他多数の石碑が建っています。また師戸地区児童遊園が併設され、ベンチ、トイレもあり休憩に適しています。



⑫ **東祥寺**

曹洞宗の寺院で、渡辺信濃守により文明4年(1472)に開基したと伝えられており、釈迦牟尼如来を本尊としています。山門は鐘楼堂と一体となった珍しいもので、山門下の紐を引いて鐘を鳴らす仕組みとなっており、毎年除夜の鐘でにぎわいます。また山門横には、スタジイの巨木が立ち並び、山門に覆いかぶさるように繁茂しています。

境内には、印旛七福神のうち寿老人、印西大師9番札所があります。座禅の研修道場があり、一般の方も申込みできます。



⑬ **アジサイ通り**

梅雨の季節には、約3,600本のアジサイが通りを美しく彩ります。環境美化ボランティア「花の会」によって育てられてきました。



⑭ **松虫姫公園**

いには野地区の防災調整池を兼ねた公園。公園内に松虫姫と、姫が乗っていた牛の伝説にちなんだ大きな石のオブジェがあり、その台座は旧印旛村の区域、地形がかたどられています。また都に帰る姫を嘆いて、乗ってきた牛が池にもぐったと伝えられている牛むぐりの池があります。

この公園は、バリアフリー化され、車椅子でも楽しめるスロープやトイレ、高床式花壇などが設置されています。この他、北側にはストレッチ器具を兼ねた遊具も設置され、健康増進に留意した設計となっています。



⑮ **印旛医科器械歴史資料館**

歴史的な医療機器・文献を収集管理しており、主として大正から昭和初期のものが約6千点も常設展示され、この種の資料館としては世界最大のものといわれています。国産1号の脳波計、閉鎖循環式麻酔器、珍しいものでは華岡青洲の手術道具のレプリカなどが展示されています。

■開館 毎週月、水、金(祝祭日、年末年始を除く)
■開館時間 10時~16時



<松虫姫伝説>

奈良時代、聖武天皇の皇女松虫姫が不治の病にかかりました。ある夜、姫の夢枕に薬師如来が現れ、「われは下総の萩原の出戸の薬師である。汝の病もわれのところへ来て祈れば平癒しよう」と告げられます。天皇は姫を下向させ、数年の間、村人に織織りや蚕の飼ひ方などの都の文化を教えながら祈願を続けたところ病は治りました。天皇は大変に喜ばれて都から大工を遣わして一寺を建立しました。寺は姫の名をとって松虫寺と名付けられ、この地も松虫と称するようになりました。現在、寺には姫が持っていた杖が根付いたという「御杖の銀杏」、都で亡くなった時に分骨して埋葬したといわれる「松虫姫御廟」、近くには姫の乳母の墓といわれる「姥塚」、姫を都から乗せてきた牛が残されることを悲しんで近くの池にもぐって死んだと伝えられる「牛むぐりの池」が残されています。

オプションルート

まつむしでら
松虫寺

真言宗の寺院で、天平17年(745)に行基によって開基されたと伝わっています。本尊は、国の重要文化財に指定されている七仏薬師如来で、33年に一度開扉されます(最近では平成24年(2012)に開扉)。松虫姫伝説でも知られています。木々に囲まれ落ち着いた雰囲気の中にある境内には、松虫姫神社、六所神社があります。

昭和58年(1983)に房総の魅力500選に選定されています。印西大師75番札所があります。

